

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ 東日本大震災への支援について (続き)

みなさんから協力していただいた救援物資はダンボール箱に詰めて 1,100 箱に上ります。現地に向けてたくさんの救援物資を送り続けましたが、250 箱が残っています。そのうち保存のきかない米 180kg(6 箱)は先方と連絡を取ったうえ福島県相馬市へ宅配便で送りました。職員の派遣については、2 人目の保健師が宮城県東松島市に出掛けました。また福島県いわき市^{なこそ}勿来への行政職職員(1 名)の派遣が続いています。職員の派遣は、これまでに総勢 33 名に上ります。

■ 平成 22 年度の入札について

合併後丸 6 年が経ちました。小野田地区(旧小野田市)と山陽地区(旧山陽町)を比べると、人口比では 2 対 1 で小野田地区が 2 倍。面積比では逆に 1 対 2 で山陽地区が 2 倍。そんな 1 市 1 町の合併で、公共工事の発注件数などに偏りはないのだろうか。6 年を経て少し気になったため、市の監理室(公共工事の入札担当部署)に平成 22 年度(平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月まで)の地区別入札件数を調べてもらいました。その結果、興味深い数字が出てきました。平成 22 年度の公共工事発注件数は、総数で 186 件、金額にして 19 億 6,577 万 1,569 円でした。そのうち小野田地区の工事が 89 件で工事金額は 9 億 5,220 万 5,089 円。一方、山陽地区の工事は 86 件で工事金額は 9 億 6,194 万 5,330 円。両地区にまたがる工事が 11 件で工事金額は 5,162 万 1,150 円。

両地区にまたがる工事を折半すると、その結果、小野田地区は 94.5 件で工事金額は 9 億 7,801 万 5,664 円。山陽地区は 91.5 件で工事金額は 9 億 8,775 万 5,905 円となり、小野田地区と山陽地区は、工事件数・工事金額いずれの点でも、公共工事については、行政が両地区をほぼ平等に取り扱っていることが分かりました。工事は、舗装工事、建築一式、土木一式、電気工事、業務委託その他さまざまです。偶然の結果ともいえますが、小野田・山陽の両地区で工事件数・工事金額がほぼ一致したとは、誠に興味深いことでした。

■ 照明学会中国支部から表彰を受けました

より高度な照明施設の普及を目的にした「社団法人 照明学会」という全国組織の団体があります。全国を 9 つの地区に分け、中国支部の管轄地域は中国 5 県です。支部の役員は宇部工業高等専門学校長(支部長)、大学教授、その他実務家などで構成されています。その中国支部から、この度、本市のほか中国地区の 2 施設に優秀施設賞が授与されました。本市受賞の理由は、市庁舎について「平成 22 年 4 月から同年 9 月まで既設照明器具 406 台を省エネ性の高い環境配慮型器具に取り替え、その結果 CO2 削減に貢献した」というものです。市役所庁舎にかかる電気代は別館を含め 1 年で約 1,000 万円。このうち 90 万円程度を節約できそうです。

対話の日

6 月 30 日(木) 14:00 ~
渡場自治会館